

＝平成30年度早川南小学校だより＝

# はるき



平成31年1月23日

No.41

校長 坂野修一

## 全国学校給食週間



平成最後の2019年、新しい年がスタートし、はやくも下旬に入っています。学校では、昨日、ありがとうコンサートに向けての、新執行部による代表委員会が行われました。3学期の授業日数は52日ですが、確実に残るその数字が減ってきています。巷では、インフルエンザが警報レベルになっていますが、**本校はインフルエンザ罹患者0**です。このまま、健康に3学期を駆け抜けたいものです。

さて、明日1月24日から30日まで、全国学校給食週間です。日本の学校給食は、明治22年に山形県の小学校で、貧困児童を対象に無償で提供された昼食が始まりといわれています。それ以来各地に広がっていきましたが、戦争の影響などによって中断されました。戦後、学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和22年1月から学校給食が再開されたとのことです。そして、昭和25年度から、「パン・ミルク・おかず」の完全給食が始まり、また、1月24日から30日までの1週間は『学校給食週間』としました。

子どもたちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態について懸念される点が多く見られる今日、学校給食は、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。学校給食週間においては、このような学校給食の意義や役割について、児童生徒や教職員、保護者や地域住民の理解を深め関心を高めるため、全国で様々な行事が行われていますが、早川町においても、今週の給食は『早川町学校給食週間』と銘打って、**地産地消の凝った(手の込んだ)給食**が出されています。一例を挙げますと…

**21日(月) 早川のホイル焼き(ソーセージやベーコンが入っていました) なめこの味噌汁 22日(火) フルーベリーマフィン**  
**23日(水) 大塚人参めし(本物の人参は見せられませんが写真を見せました) 24日(木) 鹿シチュー 早川ベーコンの炒め物**

こんな美味しい給食が、早川町では一食あたり300円の単価で作られています。なぜ、そんなに安価なのかというと、子どもたちが食べる給食は、法律で守られているからなのです。『学校給食法』という法律があり、給食費に関しては、食材費は保護者が負担することになっていますが、食材費以外の「施設の管理費」「調理員の人件費」「調理器具などの購入や修理」「光熱費」などは公費(自治体)負担となっているのです。そして、保護者の皆様もご承知のとおり、早川町では、平成24年度から義務教育無償事業の一つとして、給食費も保護者負担がありません。とてもとてもありがたい制度ですね。

早川の給食は、とても美味しいです。子どもたちも給食を本当に楽しみにしています。4年生以上は、明日からスキー教室に出かけますが、改めて、この給食週間の機会に、早川の給食の**ありがたみ**を再確認したいと思います。献立を考える早川中栄養教諭の野田先生、給食センターの調理員さん、給食を配送しているすみせタクシーの運転手さんなど、給食に関わる全ての方の顔を思い浮かべながら、美味しい給食を味わう1週間にしたいと思います。



4年生以上みなさん、明日からのスキー教室を楽しんで下さいね! けがのないように、みなさんのスキー教室の大成功を願いながら留守番しています。お天気も大丈夫!(^^)!

